

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272700426		
法人名	株式会社ワカバ		
事業所名	グループホームワカバあびこ		
所在地	千葉県我孫子市下ヶ戸1820-3		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	令和2年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気でお一人お一人に沿った和やかな生活が過ごせるような支援を心掛けています。 ・季節ごとのイベント・外出・外食やホーム内の飾りつけなど四季を感じ生活できる様に支援しております。 ・その日の体調やその方の生活ペースに合わせ、食事時間や食事形態を変更するなど形式にとらわれない生活支援を行っております。 ・入居者様の健康管理体制を整え、日々の健康状況の把握とともに体調不良時にはご家族様と連携し早期対応を実施し安定した生活支援に努めております。 ・年間を通して地域のイベントに参加し地域の方々との交流の場を楽しませております。 ・避難訓練は事前に地域の回覧でお知らせし呼びかけました。 ・ワカバ祭り(24時間チャリティイベント)では地域の皆様、ご家族様の参加で交流を深め楽しませています。 ・年間4回のドッグセラピーを通じて犬達と触れ合い楽しめる活動も実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりの、その人らしい生活の支援に取り組んでいる。食事は3食手作りで、利用者の希望を献立に反映したり、外食の機会を持つなど、食事を楽しんでもらっている。また、年間4回おこなうドッグセラピーでは犬と直に触れ合えることができ、利用者の楽しみの一つとなっている。地域との関係も大切にしており、恒例の「ワカバ祭り」では多数の地域住民の参加が見られた。また、ホームの避難訓練については回覧で近隣に案内するなど、地域との協力関係づくりに力を入れている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	思いやりといたわりの心を大切に、一人一人の能力や生活スタイルを尊重した支援を行っているまた地域との関わりを持てるイベントを継続して開催している。	法人の理念を事務室やフロアに掲示し、朝礼時には「思いやりといたわりの心」を大切なこととして伝え、業務に入るようにしている。また、毎月のミーティングでは、日々の言動などを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、イベント等で地域の方々を招き参加いただいている。何でも相談室主催の認知症予防講座や体操教室等職員と一緒に参加し地域住民の方々との交流の機会を作っている。	ホーム恒例の「ワカバ祭り」はチャリティーイベントとして地域にも声をかけ、出し物や屋台などで楽しんでもらっている。消防訓練も近隣に声をかけている。また、地域包括支援センターによる介護予防講座や体操教室、認知症カフェなどに参加し、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話での相談が増えており、関係機関と連携を行い貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内容はその都度、職員に議事録を回覧しているまたミーティングの際に報告しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は市の担当課や地域包括支援センター職員、自治会長、他のホームの管理者及び家族などの参加で年6回開催している。ホームから活動報告などをおこない、参加者と意見交換をしている。	時にはテーマを決めるなど議題の工夫をおこない、さらに双方向の会議になる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は定期的に開催し市の担当者に毎回出席いただいている。生活保護の担当者へ毎月生活状況の報告を行い、情報の共有を行っている。	市の担当職員とは良好な関係であり、制度のことや利用者への支援内容など、さまざまなことを相談している。また、地域包括支援センター職員とは地域事業で交流したり、時には困難事例を相談するなど、行政とは協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はセンサーアラームを活用し、自由に入入りをしている。状況に応じて玄関の施錠をし、入居者様の安全を確保している。	身体拘束廃止に関わる指針を整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関にセンサーアラームが設置されているが、外に出たい利用者とは一緒に出ている。身体拘束適正化のための委員会も設置し、定期的に話し合っている。また、職員研修も実施している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止実行委員会を設け毎月ミーティングで周知している。声掛けや威圧的な雰囲気にならないよう新人職員にも言葉使いチェックシートを活用し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の必要のある方には申請の説明や関係機関との連携を行い対応している。また、後見人申請については何でも相談室の担当者にアドバイスをもらうなど連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は直接面談をし説明を行っている。改正時には文書にて連絡し、質問等は常時電話や訪問時に受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様の意見や要望をうかがっている。またその内容を職員に知らせ運営に反映している。毎月入居者様の様子を介護連絡表に記載し家族に送付し連携している	家族の意見等は面会時や運営推進会議で聞いている。定期的に来訪する家族も多く、ドライブ外出などは家族の意見を反映した。また、ホームでの利用者の様子は文書にし、毎月家族に送付するなど連携を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営に関する職員の意見がある時は個別に聞き、統括管理室長は代表者の意向を踏まえ、面談する等して意見を聞く機会を設け、反映している。	毎月のミーティングや日々の業務の中で職員意見の把握に努めている。長く勤務している職員も多く、提案も上ってきており、ホームで対応できない案件は本社で対応してもらっている。職員の意見から、外食を増やした事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	設備・整備に関しては稟議書を提出し就業環境に反映されている。処遇改善手当を活用し給与水準の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会を設けている。年間の介護目標を決めて取りくんでいる。毎月の職員ミーティング時に内部研修を行い研修報告書を提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会議に参加して同業者との交流の機会を設けている。他のグループホームの運営推進会議に出席している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活の行動への様子観察や生活歴やご家族様、ご本人様との談話から情報を引き出し、よりよく暮らしていただく為の配慮を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話す時間設け、家族の不安や要望を受容している。現任のケアマネジャーや関わっている関係者と連携をする等、生活の方向性が著しく変化しないよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様と相談の上、対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に応じ、家事やレクリエーションに参加していただいている。全ての事を職員がやってしまうのではなく、本人のできる範囲の事を手伝っていただき、共同生活の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様の事について、連絡表や面会時や電話等でご家族様に連絡、相談しご家族様とより良い関係を気付けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は日付や時間を問わずできる様にしている数年続けて参加している地域主催のイベントの参加を通じて馴染みの人ができてきている。	家族や知人の訪問は歓迎している。家族と一緒に墓参りに出かけたり、ドライブで利用者が以前住んでいた場所を通るなど、利用者が大切にしてきた関係性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話や日々の暮らしの中で利用者様同士の関係を把握しており、その場の雰囲気に応じて席を変えるなどしている。レクリエーションや家事を通して、互いに支えあえるような支援に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常時相談を受け付けている。また、どのようにケアを行っていたかなど情報を提供したり、状況により訪問するなどフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声を出せない入居者様は表情からくみ取り把握するように努めている。外気浴の時間や就寝前や個別対応の外出時、受診時の待ち時間等はゆっくりと話しを聞いて思いの把握に努めている。	日々の生活の中で利用者の思いを聞き取るようにしている。特に、個別対応時は意向を把握する機会となっている。コミュニケーションを取るのが困難な場合は、表情などから把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握のためご家族様に協力をして頂き情報を共有している。新たな情報等は連絡ノートにて周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報交換を行っており、ご家族様や訪問看護師とも連携を図り現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時その方のケアについて話合いの場を作りチームケアに繋げている。アセスメント表、日常生活の記録、カンファレンス等の意見等をもとに計画作成者がケアプランを作成している。状態に変化のあった場合は随時プランを見直している。	訪問診療の医師や看護師、家族の意見を踏まえ、ケアカンファンスで話し合っ、介護計画を作成している。毎月計画作成担当者がモニタリングを実施し、3か月から6か月で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日常記録に記入し情報共有し次へ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様のニーズに応え、柔軟な支援を心がけている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れ交流の楽しみの時間が増えるように支援している。地域の講習会等に参加するなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院だけではなく、必要時には提携病院医師より紹介状を受け適切な専門医の受診を支援している。	入居時にホームの協力医を主治医とする人が多いが、中には従来のかかりつけ医に通院する利用者もいる。協力医療機関からは訪問看護師も月2回来訪して、利用者の健康状態を診ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に伝え相談し、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院と提携しており、両行な関係が保たれている。生活状況の情報を提供し利用者の負担が最小限となるよう支援を行っている。場合により意思との面談に同席し入退院時の支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に利用者様及びご家族様の石をうかがっている。看取り看護の具体的な内容については施設職員、ご家族様、主治医、看護職員等の話を繰り返し行い検討するようにしている。	入所にあたり重度化した場合のホームの指針を説明し、看取りについても同意を得て契約している。食事が摂取できなくなった場合は家族と相談し、看取りの希望があれば医師や家族、ホームで話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については全職員が対応できるようにマニュアルを掲示している。またミーティング時に勉強会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。消防計画書を作り、災害対応マニュアルを作成している。避難経路等の確認を毎日行っている。	防災訓練は年2回実施し、消防署の立ち合いもあり指導など受けている。夜間想定訓練もおこなっており、夜勤専従の職員も参加している。また、近隣に福祉施設があり、協力体制がある。災害対応マニュアルを整備し、特に火災を起こさないような取り組みに力を入れている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い利用者様の事をよく理解するよう努め状況に合わせて対応している。	言葉遣いに注意を払い、名前は苗字にさん付けを基本としている。接遇研修も実施して、意識付けを図っている。また、プライバシーにも配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が職員に声をかけやすいような雰囲気を作るよう努めている。事故決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にするように努めている。本人の希望に沿って外気浴や外出、買い物、レクリエーション等行なえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの方が得意な事、行える事を考慮しながら、無理なく行っていただいている。利用者同士でお互いに片付けを手伝う等助け合いがなされている。	利用者の希望も聞きながら、3食とも調理をしている。ひな祭りやお正月などの行事食や、外食に出かけるなど食事を楽しんでもらえるようにしている。利用者ではできる範囲で食器拭きやお茶出し、食事の準備や後片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご家族様、かかりつけ医、看護師と相談し、職員で情報交換しながらここに応じた支援をしている。状況により病院受診を行い脱水予防等の支援も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に朝・夕食後だが、必要に応じて実施している。歯科往診などでも口腔ケアをおこなっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には時間を決めてトイレ誘導している。職員一人一人がパターンや習慣を理解している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援しており、一人ひとりに合わせて、適切な時間に誘導するように努めている。申し送りにおいても、排泄状況を共有しながら支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食物繊維の摂取や1日2回の体操の取り組みや、時間に関係なく身体を動かす等行っている。また主治医と連携を行い薬による調整も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めていないが時間帯はほぼ同じような時間になっている。その時間帯の中で希望に沿えるようにしている。	週2回から3回入浴できるように支援している。入りたくないという利用者には時間を変えたり、声かけを工夫して誘導している。希望に応じて入浴剤を使用したり歌を歌うなど、楽しみながら入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠等に合わせ支援している。疲労の際の姿勢等個々の体調変化のサインをくみ取り、状況に応じた休息支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は受診ノート・申し送りノートを活用して情報共有を行っている。必要に応じて薬剤師との連携を行っている。薬ファイル・薬カードを使用し薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日会や外食等の楽しみや手伝いをしていただく事により役割を感じていただく等支援している。趣味(編み物・刺し子)等生活歴からやりたい事ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の花を楽しめる外出支援やドライブ外出を行っている。家族の承諾のもと市外(成田山・アンデルセン公園・京成バラ園等)へ遠出する機会を設けている。ホーム周辺の散歩を取り入れ日々の気分転換に努めている。理、美容等は希望の把握を行い支援している。	日常的にはホームの周辺を散歩したり、外気浴などを行っている。また、ドライブで遠出したり、レストランでの外食など、外出する機会をつくるようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内で管理し、希望時にはいつでも使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	汚れがある時は随時掃除をし、共有部分は定期的に行っている。乾燥時期は加湿器や濡れタオルを使用して湿度にも配慮している。季節に合った飾り作りをレク活動の中で取り組み、入居者様と一緒にしている。	リビングの温度は利用者に確認するなど、快適に過ごせるようにしており、利用者と職員が折り紙で作った作品などを飾り、季節感を出すようにしている。また、ボランティアやドッグセラピーなども受け入れ、日々の生活を楽しくめるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中では一人になる事はないが座る場所の工夫等はされている。1階2階の入居者との交流の時間を作り一緒に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきた家具などの持ち込みや本人が過ごしやすい空間づくりに取り組んでいる。	入居時に、慣れ親しんだ品を持ってきてもらうようにしている。タンス、テレビ、ラジカセ、仏壇など、利用者は思い思いの物を置いて、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室については、一人一人のADLの状況と生活歴に合わせて、安全に生活できるよう工夫を行っている。		